

第9章 学校における食育の推進の評価

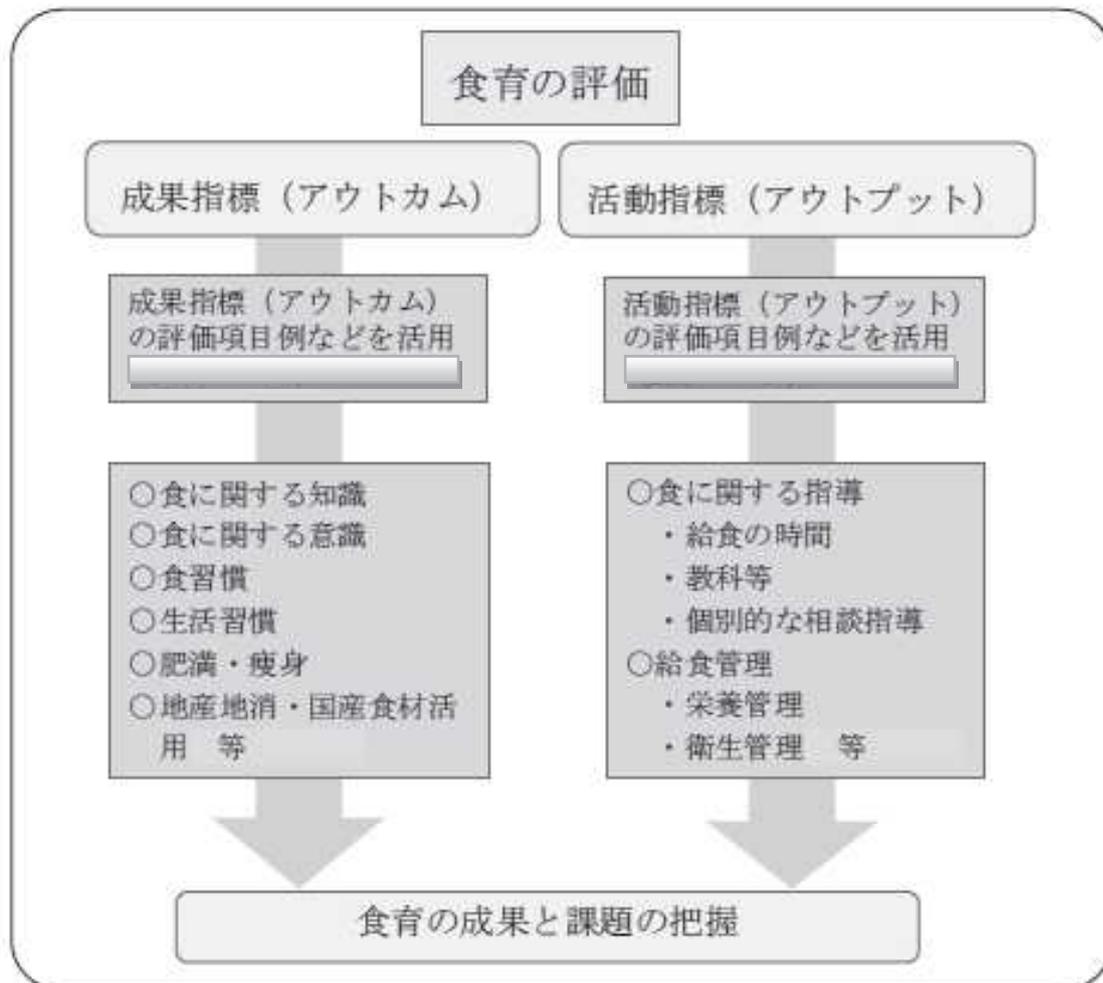
1 評価の基本的な考え方

(1) 食育の推進の評価

学校における「食育の推進の成果」を検証するためには、学校全体としての食育の推進体制等の評価を行うことが必要です。

食育の推進に対する評価は、児童生徒や児童生徒を取り巻く環境の変化の評価（成果指標（アウトカム））と活動（実施）状況の評価（活動指標（アウトプット））とに分類できます。成果指標、活動指標、両方とも次の食育計画の改善に必要ですが、校内、地域等に広く食育の推進を理解してもらうためには、成果指標（アウトカム）の評価が必要であり、中でも子どもの食習慣の評価が大切です。

評価には、数値による量的な評価と数値に表すのが難しい質的な評価があります。また、成果指標（アウトカム）と活動指標（アウトプット）の両方を設定し、総合的な評価につなげます。



(2) 食に関する指導の評価

教科等における食に関する指導は、教科等のねらいに基づいて指導が行われます。したがって、評価は、教科等のねらいに対する評価となります。また、食育の視点に立った評価資料、評価の観点及び評価規準例を作成し、担任（教科担当）等が行う当該単元（題材）の評価と併せて行うことで、食に関する指導の成果も同時に評価することができます。

2 評価の方法

(1) 成果指標の評価

全体計画の作成時に設定した評価指標の目標値を規準に取組による変化を評価します。

具体的な成果指標としては、児童生徒の肥満度などの健康診断結果の変化や生活習慣病の有病者予備群等の変化、体力向上や生活習慣の改善、意識変化などがあります。これら成果指標の評価には、児童生徒の変化に加え、児童生徒を取り巻く環境や家庭の変化も含まれます。

評価の際には、達成できた状態とはどのような状態であるか明らかにし達成度を判定するための規準を定めておくことが必要となります。

評価規準の例

「朝食の摂取状況」では、「朝食欠食の児童生徒が2%以下となり、食事内容の改善がみられた生徒が80%以上」などを「2」の判定規準とし、それ以上・以下をそれぞれ「1」・「3」と判定とする等の判定規準を示しておくことが重要です。

(例)

評 価	規 準	
1	80%以上の達成度	目標を達成できた
2	60%以上80%未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
4	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

量的な評価と質的な評価

評価は、数値での評価が必要です。しかし、児童生徒の変化をすべて数値で表すには限界がありますので、個々の発言などの質的な評価を量的な評価に加えることにより、数値での評価の限界を補うことができます。

評価例

食育に「関心がある」と回答した子どもの割合

目標値 70% → 実績値 72% 評価 2: 概ね目標を達成できた

給食に対してのコメントの数は、50件と前年度(47件)と大きな変化なかったが、書かれている内容に変化がみられた。例えば、昨年度までは、「美味しかった」などコメントが多かったが、今年度は、「今日の給食には、札幌産の玉ねぎが入っていた(3年生)」や「なすはいつも食べられないけど、今日のカレーのなすは美味しかった(4年生)」といった具体的なコメントに変化していた。

《成果指標（アウトカム）の評価項目例》

各学校等の実情に合わせて、以下の指標の中から必要な項目を選択、加除修正、又は各学校独自の指標を設定します。

また、対象とする学年や様式、評価の方法等についても、適宜、設定します。

成果指標(アウトカム)の例		現状値	目標値	実績値	評価	備考(取組状況や参考となる事項等)
食に関する知識の習得状況	知識テストや授業等による知識の習得状況など	—	—	—	1 2 3 4	学校の実情に応じて段階別評価を行うか否かを検討します。
食に関する意識の改善状況	食育に「関心がある」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	「朝食をとることは大切である」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
食習慣の状況(朝食摂取、食事内容等)	朝食を「毎日食べる」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	「栄養バランスを考えた食事をとっている」と回答した割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	●%	●%	●%	1 2 3 4	
生活習慣の状況(睡眠時間、排便習慣等)	睡眠時間を●時間以上確保できている割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
肥満・痩身の状況	肥満度20%以上の出現率		●%	●%	●%	
	肥満度<20%以上の出現率		●%	●%	●%	
学校給食での栄養摂取状況	配膳されたものを残さず食べられた子供の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	計画に基づく取組の成果や課題など次年度の取組の参考になることを記載します。
疾病(不定愁訴)等の発生状況	病欠者の人数(割合)	●%	●%	●%	1 2 3 4	
地場産物、国産食材の活用状況	地場産物・国産食材の活用割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
給食時の衛生管理の状況	給食前に手洗いをしている児童生徒の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
学校給食関連事故の発生状況	学校給食関連事故の発生件数	0件	0件	0件	1 2 3 4	
(参考)児童生徒の体力の状況	新体力テストのD・E段階の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	
(参考)児童生徒の学力の状況	全国学力テストの結果が●%以上の割合	●%	●%	●%	1 2 3 4	

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった

(参考)：間接的ではあるが関連が想定される指標

出典「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」(文部科学省、平成29年3月)

(2) 活動指標（アウトプット）の評価

活動指標（アウトプット）の評価は、学校における食育の取組状況等に対する評価です。全体計画の作成時で設定した活動指標に沿って行います。その取組に関わった実施者による自己評価だけでなく、第三者の視点も交えて複数で行う方が客観的な評価ができます。

具体的な活動指標としては、食育指導実施率、食育指導の継続率、給食試食会の回数、校内食育研修の回数などがあります。

《活動指標（アウトプット）の評価項目例》

各学校等の実情に合わせて、以下の指標の中から必要な項目を選択、加除修正、又は各学校独自の指標を設定します。
また、評価の様式や方法等についても、適宜、設定します。

区分	評価指標	評価(特記事項)		
食に関する指導	給食の時間における指導	給食の時間を活用した食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 学級担任による給食の時間における食に関する指導を計画どおり実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できたか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 献立を通して、伝統的な食文化や、行事食、食品の産地や栄養的な特徴等を計画的に指導できたか。	1 2 3 4	
	食に関する指導	教科・特別活動等における食に関する指導	教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 栄養教諭が計画どおりに授業参画できたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 教科等の目標に準じ授業を行い、評価規準により評価できたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができたか。	1 2 3 4
	個別の相談指導	個別の相談指導	偏食、肥満・痩身、食物アレルギー等に関する個別の相談指導が行われ、機能しているか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 肥満傾向、過度の痩身、偏食傾向等の児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 食物アレルギーを有する児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 運動部活動などでスポーツをする児童生徒に適切な指導ができたか。	1 2 3 4
			<input type="checkbox"/> 栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医などが連携を図り、指導ができたか。	1 2 3 4

区 分	評 価 指 標	評 価 (特記事項)	
給 食 管 理	栄 養 管 理	「学校給食実施基準」を踏まえた給食が提供されているか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 「学校給食摂取基準」を踏まえた、栄養管理及び栄養指導ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 「学校給食摂取基準」及び食品構成等に配慮した献立の作成、献立会議への参画・運営ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 食事状況調査、嗜好調査、残食量調査等が実施できたか。	1 2 3 4
	衛 生 管 理 (職 種 に 応 じ て 評 価 可 能 な 項 目 を 評 価 し ま す。)	「学校給食衛生管理基準」を踏まえた衛生管理がなされているか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 衛生管理を徹底し、食中毒の予防に取り組めたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 調理過程から配膳までの手順や衛生管理を徹底し異物混入を予防できたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 国や学校等の対応方針に基づき、適切な食物アレルギー対応ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 検食を適切に実施し、記録を残しているか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 保存食を適切に採取・保存し、記録を残しているか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 調理及び配食に関する指導は適切に行うことができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 物資選定委員会等出席や食品購入に関する事務を適切に行うことができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 産地別使用量の記録や諸帳簿の記入、作成を適切に行うことができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 施設・設備の維持管理を適切に行うことができたか。	1 2 3 4
連 携 ・ 調 整	食 に 関 する 指 導	教師同士の連携体制が構築され、食に関する指導が行われているか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は養護教諭、学級担任等と連携して指導ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭を中心として、家庭や地域、生産者等と連携を図った指導ができたか。	1 2 3 4
		栄養教諭と教職員の連携のもと給食管理が行われているか。	1 2 3 4
	給 食 管 理	<input type="checkbox"/> 栄養教諭は学級担任・養護教諭等と連携して栄養管理、衛生管理ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は、調理員等と連携して給食管理ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭を中心として、納入業者や生産者等と連携を図った給食管理ができたか。	1 2 3 4

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった
 ※学校の実情に応じて段階別評価を行うか否かを検討します。

3 評価から改善へ

評価結果を踏まえて、食育推進組織において次年度に向けての改善点を検討します。その際、栄養教諭は、校長に客観的な評価資料を示し、具体的な改善点を相談した上で、全教職員で共通理解を図ります。また、保護者等にも適宜評価結果を公表し、相互理解を深め連携体制を改善・強化します。

評価結果の考察には、指導計画と活動内容と併せて評価の結果を読むことで、どのような取組を実施した結果なのかが分かり、次年度の指導計画の改善案の提案が可能になります。

推進組織における食に関する指導の評価と改善の手順

①指導計画の背景と目標

- ・食に関する指導目標について、学校教育目標や地域の健康・食育計画等の関連を含めて説明する。
- ・子どもの実態把握の結果から設定した成果指標及び目標値を説明する。
- ・成果指標の達成に向けて設定された活動指標を説明する。

②活動内容

- ・成果指標の目標値の達成に向けて設定した食に関する指導の目標と、実施した活動内容を説明する。
- ・個々の活動内容の説明には、活動の進捗状況（経過評価）を含める。

③評価

- ・①に示した成果指標の目標値の達成度を結果として示す。
- ・①に示した活動指標の結果を説明する。

④今後の課題

- ・③に示した評価の結果について、考察する。
- ・考察を踏まえ、次年度の計画の提案を示す。

考察を踏まえた指導計画改善例

①目標値が達成されたので、レベルアップした新たな評価指標に変更する。

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子どもの割合

目標値 85% → 実績値 90%

この結果を受けて、次年度は、「主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べる子どもの割合」を増やすという目標に変更する。（現状値を把握する必要あり）

②目標値が達成されたので、同じ目標の目標値をあげる。

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子どもの割合

目標値 85% → 実績値 85%

この結果を受けて、次年度は、目標値を 90% 以上とする。

③目標値が達成されたので、評価指標からはずす。

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子どもの割合

目標値 85% → 実績値 98%

この結果を受けて、次年度の評価指標からはずし、他の評価指標を設定する。
ただし、現状維持を確認するため、毎年実態把握は行う。

④評価がしにくい指標で、成果が上がらないため、評価指標を変更する。

例：食育に「関心がある」と回答した子どもの割合

目標値 80% → 実績値 75%

食育に「関心がある」という評価項目は、児童生徒には難しいことから、食に対する意識として、「食事が楽しい」と回答した児童生徒の割合に評価指標を変更する。

⑤評価指標の目標値が達成可能である数値でないため、目標値を下げる。

例：食育に「関心がある」と回答した子どもの割合

目標値 100% → 実績値 85%

現状値からは改善されたものの、100% は高い目標であった。次年度の目標値を 90% に下げる。

※成果指標の目標値を達成しなかった場合は、活動指標の評価とあわせて、全体計画及び各教科等の指導の内容を振り返り、次年度の計画の見直し・改善を行う。

※全体での目標達成についての評価とともに、個別指導の目標達成についても加味し、評価する。

例えば、肥満の割合を●%にするという目標値について、全体では達成できなかったが、肥満度 30%⇒25%になった児童、23%⇒20%になった児童などが▲名いるなど、全体の割合が変わらなくても、内容に変化があった旨も併せて評価する。